

生徒の「やる気」を生かす 3年生夏休み前の意識付け

時期の特徴

部活動を引退し、学習へと切り替えようという意識はある。反面、弱点や具体的な学習方法が把握できておらず、塾任せだったり、時間を効率的に使えていなかったりする。

指導のポイント

やる気を生かすため、進路志望検討会を通じて弱点を明確化。面談や学習計画の立案を通じて個に応じた具体的な学習方法を実践させ、自学の基軸をつくる。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 7月の進路志望検討会の狙いを明確にする

……➔ 図1 (㉔全体で検討する項目)

◎7月の進路志望検討会は、生徒の志望を絞り込むためのものではなく、生徒の学力を詳細に把握し、より力を付けさせるための指導を検討する場である。学年に関係する全ての教師が生徒にふさわしい学習法、そして考える志望先を話し合う。まずは、この狙いを全ての教師が認識する。

2 狙いを達成するために必要な観点の目線合わせを行う

……➔ 図1 (㉕担任がチェックする項目)

◎進路志望検討会の内容について、学年主任や経験豊富な教師が事前に検討の観点を一覧化しておくと、赴任歴が浅い教師や3年生の指導経験が少ない教師なども、積極的に検討会に参加でき、チーム力の向上につながる。検討項目ごとに、相談先を明らかにしておくことで事後の詳細な問い合わせもスムーズになる。

3 学年で標準化し、具体的な指導に落とし込む

……➔ 図1 (㉖担任の指導例)

◎進路志望検討会で話し合われた内容を、個々の担任の指導の中で具体的にどのように生かしていくかを整理する。それを基に夏休み前後に設定されている三者面談や校外模試など個別のシーンに合わせた指導に落とし込む。更に生徒のパターンに応じた声掛け例などの共有も経験の浅い教師には役立つだろう。

対教師へのデータ

進路志望検討会の狙いを明確化し、
学年で足並みをそろえた指導を実現

データを用いた指導の流れ

6月

◎7月実施の進路志望検討会に向けて、狙いと観点を明確化する(図1)

7月進路志望検討会

◎ベテラン教師、教科担任の知見なども得ながら、個々の生徒の志望からどんな学力が必要かを教科別・分野別に検討する

夏休み前

◎進路と学力に応じた学習内容・方法を個人面談で生徒と共有し、三者面談などで保護者に指導の方向性を確認し、具体化する

夏休み

◎生徒の学習が実行できているか、登校日や課外の日などに確認し、声掛けを行う

図1 進路志望検討会の目的と日々の指導のつながりを整理するシート

学年目標 一つ上、一つ先の目標を生徒が最後まで貫けるようにする

7月進路志望検討会の狙い 夏休みに一人ひとりの生徒が取り組むべきことを学年団で明らかにし、各担任経由で生徒と共有できるようにする

| A全体で検討する項目 | B担任がチェックする項目 | C担任の指導例 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--------------------------|--|-------|--------------------------|--|-------|--------------------------|---|-------|--------------------------|--|--|--|
| <p>1 志望校設定の成熟度を把握する</p> <p>生徒の将来の目標に合致した志望校を設定できているか確認し、その志望校がしっかり考え抜かれた末の選択になっているか、生徒との面談や学力動向を基に分析する</p> | <p>資料◎入試科目一覧、生徒記入の志望調査票 など 相談先</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>生徒の将来の志望と希望進路が一致しているか。よりふさわしい進路を見逃していないか</td> <td>進路指導部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>学部志望順位や難易度の順位は適正か(例えば第1志望が工学部なのに、第2志望が医学部になっていないかなど)</td> <td>進路指導部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>志望校の入試科目と生徒の履修歴にミスマッチはないか</td> <td>進路指導部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>最終チェック 志望校は生徒が考え抜いた大学になっているか</td> <td></td> </tr> </table> | <input type="checkbox"/> | 生徒の将来の志望と希望進路が一致しているか。よりふさわしい進路を見逃していないか | 進路指導部 | <input type="checkbox"/> | 学部志望順位や難易度の順位は適正か(例えば第1志望が工学部なのに、第2志望が医学部になっていないかなど) | 進路指導部 | <input type="checkbox"/> | 志望校の入試科目と生徒の履修歴にミスマッチはないか | 進路指導部 | <input type="checkbox"/> | 最終チェック 志望校は生徒が考え抜いた大学になっているか | | <ul style="list-style-type: none"> ●なぜその大学を志望するのか、どこに魅力を感じているのかを生徒自身に語らせる ●出来る限り早めに三者面談などで保護者の希望や経済的事情なども確認しておく ●志望校の選択肢を広げ、将来の目標に近付ける別の志望校がないか調べさせる ●学習計画表を作成させ、学習内容と学習量を検証・共有する |
| <input type="checkbox"/> | 生徒の将来の志望と希望進路が一致しているか。よりふさわしい進路を見逃していないか | 進路指導部 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 学部志望順位や難易度の順位は適正か(例えば第1志望が工学部なのに、第2志望が医学部になっていないかなど) | 進路指導部 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 志望校の入試科目と生徒の履修歴にミスマッチはないか | 進路指導部 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 最終チェック 志望校は生徒が考え抜いた大学になっているか | | | | | | | | | | | | | |
| <p>2 志望と学力のギャップの明確化</p> <p>生徒の志望と現在の学力のギャップを把握し、入試本番までに取り組むべきことを具体化する</p> | <p>資料◎ベネッセ総合学力マーク模試・6月結果帳票、FINE SYSTEM データ など 相談先</p> <table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>志望を達成するために、どの教科をどのくらい強化すべきか</td> <td>進路指導部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>学習の優先順位の高い単元の具体的な学習方法にはどんなものがあるか</td> <td>教科担任</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模試や校内テストの結果にはまだ表れていないが、日頃の学習方法などで学力が付いていないと課題に感じる部分はないか</td> <td>教科担任</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>最終チェック 生徒の学力動向と弱点を具体的に把握し、志望校とのギャップを確認する</td> <td></td> </tr> </table> | <input type="checkbox"/> | 志望を達成するために、どの教科をどのくらい強化すべきか | 進路指導部 | <input type="checkbox"/> | 学習の優先順位の高い単元の具体的な学習方法にはどんなものがあるか | 教科担任 | <input type="checkbox"/> | 模試や校内テストの結果にはまだ表れていないが、日頃の学習方法などで学力が付いていないと課題に感じる部分はないか | 教科担任 | <input type="checkbox"/> | 最終チェック 生徒の学力動向と弱点を具体的に把握し、志望校とのギャップを確認する | | <ul style="list-style-type: none"> ●得意な教科・科目の学習に時間を割き過ぎる生徒には、「この時期はまず弱点克服こそが重要だ」と伝える ●学力、目標に合った問題集を選んでいるか確認する。合っていなければ学校で使用してきた教科書や問題集の中の弱点分野の基礎問題を解くように指導する ●教科全体のスコアは高いが特定分野で課題がある生徒には、進研模試の個人成績票の分野別成績部分を示し、得意教科であっても弱点があることを気付かせる |
| <input type="checkbox"/> | 志望を達成するために、どの教科をどのくらい強化すべきか | 進路指導部 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 学習の優先順位の高い単元の具体的な学習方法にはどんなものがあるか | 教科担任 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 模試や校内テストの結果にはまだ表れていないが、日頃の学習方法などで学力が付いていないと課題に感じる部分はないか | 教科担任 | | | | | | | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> | 最終チェック 生徒の学力動向と弱点を具体的に把握し、志望校とのギャップを確認する | | | | | | | | | | | | | |



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

どうすれば伸びるかを教科担任に聞いていく

この時期の検討会では「これからどうやって伸ばすか」にこだわりたい。「この生徒はこの分野が苦手」と状況を確認するだけではなく、「この分野について学力が足りないなら、今後この生徒にはどんな学習方法や計画が有効か？」と教科担当に具体的なアドバイスを求める姿勢が担任には求められる。

生徒の可能性を教師全員で評価する

進路志望検討会では、模試の判定だけでなく、あらゆる面から生徒の可能性を評価したい。「部活動を3年間続けた生徒は夏以降にぐんと伸びるから、このまま志望を貫かせるべき」「この生徒は文章を書くことに長けているから、小論文のある大学も視野に入れたい」など、教師の経験から想定できる生徒の可能性を共有すれば、指導の継承の場としても活用できる。

マイナスに注目する夏の指導とプラスを重視する秋以降の指導

教科学力の基礎固めが重視されるこの時期は、生徒の弱点を洗い出すべき時期。生徒は「いよいよ受験に向かう！」と夏休みを契機にこれまでの自分をリセットする気持ちになっているので、弱点を抽出した指導でも前向きに受け止めることが出来る。逆に生徒の受験への不安が高まる秋以降の時期は強みを見つけて、軌道に乗せる指導が必要となってくる。

目的別データ活用

1 学習計画立案から夏休みをシミュレーションし面談で修正する

……→ 図2

◎夏休みは教師の目が行き届かない時間が増える。一人で効率的に学び続けるとはどういうことかを実感させるために、夏休みの目標に準じた学習計画を1週間程度試行させる。学習計画の土台となる模試結果が出そろった7月上旬は、シミュレーションの絶好のチャンスだ。目標を掲げて実際に取り組むことで、さまざまな発見があるはずだ。やる気になっているからこそ、「問題集を10冊やり遂げる」など量勝負に陥りがちだが、やる気を達成感につなげるためにも自分の計画を自力で実現できるかシミュレーションさせたい。

2 夏休みを非効率に終わらせないために具体的な指導を徹底する

……→ 図3

◎学習計画の試行を終えての面談では、夏休み中の1日ごとの学習スケジュールを立てさせる。苦手教科だけではなく「どの分野が弱いのか」まで明らかにし、「何を行えば秋までに弱点を克服できるのか」を具体化するために面談を行う。具体的なアドバイスが出来るよう、クラス担任は進路志望検討会などの場も利用し、教科担任から情報を得ておく。また、難関大志望者、運動部引退者、成績低迷者など、生徒の特徴ごとに起こりがちな計画上の不備をまとめ、学年団で共有する。学年団として学習計画を検証し、生徒の効率的な夏休みの学習を応援するチーム力が求められる。

対生徒
への
データ

「学習内容計画シート」を活用し、夏休みに一人で学ぶ力を付けさせる

データ活用の流れ

STEP 1

◎進研模試の帳票裏面から、各生徒がどの教科・科目の何の単元・分野が弱いのかを把握する

STEP 2

◎面談などで生徒に自身の弱点を分析させ、それに基づいた学習内容計画シート(図2)を作成させる

STEP 3

◎学習計画の内容に無理・無駄はないか、図3のリストなどを参考に担任が確認。面談を通じて修正していく

STEP 4

◎夏休み中の登校日や課外補習の日などに計画通りに学習が進んでいるか、生徒に声掛けを行う

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください！ 右のウェブサイトでご覧いただけます。

- 2007年10月号
- 「粘り強さを育む3年生2学期の意識付け」
- 2008年6月号
- 「受験へ向けた3年生保護者への意識付け」
- 2010年4月号
- 「3年生1学期の『受験生への切り替え』と自立の一步となる志望校設定」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトで
ダウンロード!

図2 進研模試結果を活用した弱点克服のための学習内容計画シート

| 自分の弱点 | 克服のための計画 | 月/日 | 午前 | 午後 | 1日の学習の目標 | | 達成状況 (○△×) |
|--|---|------------|----------------------------|----------------------------|-------------|-------------|---------------|
| | | | | | 教科 | 内容 | |
| ② 数学の中でも 三角関数と 数列が分か っていない | ③ 数学の教科 書の中から 三角関数と 数列の基礎 問題を全解く | ④ 1週目 | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 数学 | 教科書 P.0~P.0 | |
| | | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 英語 | 問題集 P.0~P.0 | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 数学 | 教科書 P.0~P.0 | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | 国語 | 漢字問題集 P.0 | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| | 2週目 | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |
| | | 9 10 11 12 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 | | | | |

① 参考 進研模試帳票の裏面

| | | | | |
|-----------|------|-------|------|---|
| 数1 2 | 1次必須 | 得点/満点 | 得点率% | 評 |
| 1方程式と不等式、 | | 25/40 | 62.5 | □ |
| 2図形と計量、場合 | | 32/40 | 80 | ○ |
| 3平面図形 | | 12/20 | 60 | □ |
| 1三角関数、指数・ | | 12/30 | 40 | ▼ |
| 2微分法、積分法 | | 30/30 | 100 | ○ |
| 3ベクトル | | 6/20 | 30 | □ |
| 4数列 | | 6/20 | 30 | ▼ |

■…あなたの得点率
□…目標得点率 ○…得意分野
▼…対策が必要な分野

達成状況には、学習時間が達成できたかではなく、目標に掲げている学習内容がきちんと理解できているかので ○△×を記入する

活用の
ステップ

① 進研模試の帳票裏面から、どの教科のどの分野の学力が不足しているのかを検証

② 面談で生徒が自身の弱点を把握しているか確認し、認識できていればシートに記入させる

③ 弱点を克服するための計画を週単位で立案

④ 週計画を達成するための1日の学習計画を記入

図3 気を付けたい生徒の学習スタイルチェックリスト

| 学習内容計画シートから見える学習スタイル | 陥りがちな失敗 | 改善のための指導 |
|-------------------------------------|---|--|
| 実現不可能と思われる学習計画を立てている(学習時間、内容、量から確認) | 最初の数日で挫折する可能性がある。また、気持ちだけあれば達成できると思い続け、結果、実現できずに終わる | <ul style="list-style-type: none"> 無理なく確実に学習を積み重ねていくことが基礎固めにつながることを伝える 学習は気分だけでは成立せず、地道で計画的な努力こそが必要なのだと伝えていく |
| 得意な科目に多くの時間を割いている | 苦手科目の学習を避け続け、弱点を克服できずに終わってしまう可能性がある | <ul style="list-style-type: none"> この時期の弱点克服こそが志望実現のカギとなることを伝える 教科書の中で苦手な分野の基礎問題をきちんと解くなど、具体的に指導を行う |
| 学習内容を具体的に記入できていない | 弱点分野を把握できず、非効率な学習を繰り返す | <ul style="list-style-type: none"> 模試帳票の見方を面談などで確認する 教科担任に相談し、具体的な学習法を示してもらう |

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス(プラスαの指導)

「ここからだ」と、やる気みなぎる生徒にも注意!

部活動を引退し「ここからだ」とやる気を出している生徒は気持ちが空回りして、「深夜1時まで勉強をする」「参考書を新たに購入し、全科目分を仕上げる」など、無謀な学習を進めてしまい、早期に挫折するケースも少なくない。「実現可能で、入試まで十分に間に合う計画」を面談の場で共有し、安定した気持ちで夏休みに向かわせたい。

生徒の志望を「本物」にする面談指導

この時期、志望を固めている生徒はまだ少ない。「オープンキャンパスに行つて気に入ったから」「親が強く勧めるから」という理由で志望する生徒も多い。夏休み前の面談は「なぜこの大学を志望するのか?」「なぜこの大学に魅力を感じるのか?」と、理由を突き詰めて語らせる最後のチャンスだ。その上で夏休みに情報収集と自己理解を繰り返させ、志望を「成熟」させる。

生徒に関わる全ての教師の力を用いる

各教科担任から生徒に弱点の克服方法を直接語ってもらうのも有効だ。模試結果だけでなく日頃の授業の受け方や予習復習の方法などとの関連も踏まえているので、生徒の納得度は高い。また、夏季補習についても教科担任が「きみの弱点の単元をこの週に扱うので、その前に教科書の復習に取り組もう」などのアドバイスをすれば、夏季補習を戦略的に学習計画に取り込める。